

東京オリンピック・パラリンピック・
ラグビーワールドカップ特別委員会
県外調査報告書

平成29年11月8日（水）～10日（金）

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 豊田スタジアム、豊田自動織機 海陽ヨットハーバー、東大阪市花園ラグビー場、和歌山セーリングセンター
- (2) 出席委員 藤代委員長、田中(徳)副委員長、おざわ、石川(巧)、国松、嶋村、米村、さとう(知)、高谷、渡辺(ひ)、池田の各委員
- (3) 調査日 平成29年11月8日(水) から 10日(金) まで

2 豊田スタジアム

(1) 調査目的

ラグビーワールドカップ2019の試合会場である豊田スタジアムは、ラグビートップリーグのメーングランドとなっており、過去にも日本代表のテストマッチ、FIFAクラブワールドカップをはじめ世界的にも注目されるイベントの開催会場としても使用されている日本トップクラスのスポーツ施設である。また、市民のための競技イベント会場としても積極的に活用されている。

本県においても、ラグビーワールドカップ2019の横浜開催を成功させるため、共同開催都市の横浜市と連携し開催準備を行うとともに、国内外の魅力的なラグビー大会等の誘致を行っていることから、同市における豊田スタジアム施設運営やラグビーワールドカップ2019に向けた取組等を調査することにより、今後の委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア 施設概要(主なもの)

- ・利用開始：2001年7月21日（市制50周年記念に建設）
- ・面積：中央公園（170,000㎡、建設面積40,734㎡、延床面積：97,004㎡）
- ・階層：地下2階（ピッチ部分）、地上4階
- ・収容人数：45,000席（内可動席2,438席）
- ・客席の傾斜：最大38度（参考：札幌大倉山ジャンプ台は35度）
- ・レストラン：150席

イ 施設の運用状況

- ・駐車場の数が674台では大きなイベント時は足りないため、公共機関の利用を勧めたり、駅からはシャトルバスが出る。駅からの距離は1.4km。
- ・屋根は四つの角からつっている形の構造で、スタンドの真ん中に柱がなく、どこからでも邪魔をするものがなく競技が観られる。また、屋根は開閉式構造ではあるが、数年運用を停止して閉めておらず、ラグビーワールドカップでも閉めない予定。
- ・指定管理制度を採用し、管理者の(株)豊田スタジアムは第三セクターで単独

指名。指定管理料は年間約6億円、指定管理料を含めた市の支出総額は平成28年度10億6,000万円、収入約9,000万円で、差し引き約9億6,000万円の赤字。

- スタジアムで実施する事業やイベントは毎年前年度に調整するが、サッカーJリーグの名古屋グランパスの試合日程を最優先に決めていく。ちなみに名古屋グランパスの試合数は、年間8～10試合程度。また市民なども空いている日であれば使うことができる。
- ピッチの管理では、芝の植え替えが最も重要な部分。年に2回植え替えを実施する。1回の張り替え・養生に4から5週間かかる。なお、競技場がすり鉢上の構造施設なので、芝の養生には決してよいものでなく、競技場の開場以来、芝の管理は試行錯誤が続いている。
- これまでの主な利用実績として、サッカーの国際試合は、過去ワールドカップほか9試合開催した。ラグビーもトップリーグのトヨタ自動車ヴェルブリッツのホームチームがあるので、これまで国際試合もリポビタンDチャレンジカップを昨年6月に開催した。そのときの来場者は、これまでの日本代表戦として最多だった。コンサートも二、三年に1回のペースで実施している。また、市民マラソンや産業フェスタなど市主催の催しも実施している
- 平成28年度の集客実績：サッカーJリーグ公式戦9試合19.7万人、キリンカップサッカー4.2万人、ラグビー日本代表戦2.4万人等。
ただし、スタジアムは都市公園内にある競技場なので、公園の利用者を含めると、170万人の利用者となる。

ウ ラグビーワールドカップ2019に向けた取組

- 他都市と同様に、愛知県と豊田市での共同開催。実行委員会を作り取組を進めている。事務局は豊田市役所内に設置され、愛知県から3名が来ている。
- 発表された試合日程は、強豪国が登場する3戦と日本戦の計4戦で、地方都市としてどうなるか不安だったが安どしている。
- ワールドカップ成功に向けて、愛知県と豊田市が連携し取組方針として五つのポイントで推進している（①ワールドカップにふさわしい試合会場の提供、②広域の都市と連携した「おもてなし」、③ラグビーの普及促進、④中部地方への効果波及、⑤国際都市としてのまちづくり）。
- 商標の関係で、開催都市マークが開催都市以外は使いにくいので、豊田の独自キャッチフレーズを作成し、それを積極的に普及活動している。地元信金の封筒や、菓子屋の包装紙などに入れてもらうなど、行政以外に協力してもらっている。
- 機運醸成のために様々な事業を愛知県ども協力して行っている。内容としては、昨年のチャレンジカップでの日本代表の国際試合やラグビーフェスタの

開催、1,000日前イベント等。今年もワールドカップ特別仕様ナンバープレート
の国交省中部運輸局、愛知県、豊田市の公用車への装備、ラッピングバス、
ラグビーフェスタでの南アフリカのスーパーラグビー所属のチームを招待して
トップリーグチームとの試合等を行う予定。また、市内最大イベントの産業
フェスタでもブースを出してPRしたり、広報関係でも、ニュースレターなど
作成したり、WEBなどでも情報発信している。

- ・ボランティアへの取組は、ワールドカップ公式ボランティアスタッフに参加し
やすいような環境をつくるべく、TRT FOR ALLスタッフということで、8月末の
トップリーグ開幕戦やラグビーフェスタで募集したところ、60から70名の
募集があった。本番に向けて皆さんに活躍してもらう予定。

(3) 主な質疑応答

質 疑 プロサッカーチーム、ラグビートップリーグの本拠地であるが、
年間2箇月間ぐらい芝の張り替えで使えないとのことだが、実際の稼働
日数は年間どの程度か。

応 答 ピッチに陸上用トラックはないが、市民マラソンなどでは芝部分
の周囲にあるゴムピッチ部分など走って利用する場合がある。また、
企業が使う場合などではピッチを含め芝は使わないがスタンドのみ
使うイベントの場合もあり、これら全て含めると、建物全体での年間
利用は年100日程度。

質 疑 芝部分を使わず、スタンドのみ使うイベントとはどんなものか。

応 答 ゴムピッチの上にステージを設置してスタンドの観客を入れて
そこから観たりするイベント等の催しの利用もある。また、サッカー
等の日本代表戦のパブリックビューイングなどでも活用。

質 疑 アメリカなどを見ると、スタジアムを中心に周囲を含めてのボール
パークというイメージで施設全体を活用して、にぎわいを創出する
ような形態が行われているが、日常的な経済活動で発生するエリア
づくりなどはどう考えているか。そして、4万5,000人収容の割
にはレストランが少ないと思われるが、こういった運営をされている
のか。

応 答 指定管理者の(株)豊田スタジアムがレストランの運営しており、
日常営業している。利用が多いのはランチタイム。理由は、スタジア
ム内に遊び場はないが、周囲全体が公園になっているのでそれら
の利用者が活用している。

質 疑 大きなイベント開催時などは足りるのか。

応 答 Jリーグの試合では、ホームチームの名古屋グランパスが持つ契
約業者が多く出店している。また産業フェスタなどでは、何十とい

うテントが外周にたくさん作られる。設置場所は、スタジアムの敷地内の外周の西、東イベント広場と決められている。スタジアム周辺は全体としてとても広いエリア、緩衝地帯を確保しているが、理由は大きな音響を出したり迷惑駐車を防ぐため。そしてその場所に出店されると営業保障をしないといけないので、市として周辺に何も設置させないように定めている。

- 質疑 イベントなどでの外周テントでの出店料は徴収しているか。
応答 床の占有料として市は徴収しているが、売上げ部分は徴収しない。その根拠として都市公園条例を適用し、1㎡あたり21円とわずかに入ってくる程度で体育館の利用料などと全く違う。その分ロイヤルティを名古屋グランパス側がとっており、ウイン・ウインの関係になっていると考えている。
- 質疑 ラグビーの試合だと、サッカーと違い芝生の傷み方が違うと思うが、どのような対策をとっているか。
応答 いずれも傷んだ部分を中心にカップで補修をしていて、この入替えもしながら補修している。ラグビーの方が補修は多いが、試合内容や天候にもカップ補修の数が異なる。
- 質疑 ラグビーワールドカップを開催するに当たっての改修内容は。
応答 大型映像装置が1基しかないためもう1基設置し、照明の照度が要求基準に達していないので改修する。あとは、記者席、ドーピング検査室の改修。ドーピング検査室は2002年サッカーワールドカップ基準のため現在の基準に満たされていないので拡大する。
- 質疑 ラグビーワールドカップ開催における改修費用と、年間運用経費の10.5億円のうち、うち指定管理費6億円と、それ以外の4.5億円の違いは。
応答 改修費用の詳細はこれからになる。また、改修をラグビー関連でするかJリーグ関連で行うかは政策的な部分も含めまだ詳細が算定されておらずまだ未公表。指定管理料を除く差額部分は、市が直接発注する修繕費が一番大きい。それ以外としては、市が芝生のほ場も管理しているのでその委託費など。なお、指定管理者が芝の修繕などすることはなく、水遣りなどの管理がメインとなる。
- 質疑 芝の維持管理だけで、年間どの程度かかるか。
応答 1.2億円程度かかる。



(*) スタジアム内視察中においても、質疑が随時行われた。

(4) 調査結果

ラグビーワールドカップ2019の試合会場となっている豊田スタジアムは、過去FIFAクラブワールドカップをはじめ世界的にも注目されるイベントの開催会場としても使用されていることなど日本トップクラスのスポーツ施設であり、そのノウハウも生かし、ラグビーワールドカップ2019開催に向け、機運醸成はじめ、ソフト・ハード両面で準備を進めている。

以上のように、豊田スタジアムの施設運営やラグビーワールドカップ開催に向けたハード、ソフト両面における積極的な取組を調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

3 豊田自動織機 海陽ヨットハーバー

(1) 調査目的

海陽ヨットハーバーは全国でも有数の規模を持つ公共のヨットハーバーで、今年10月にはセーリングワールドカップが日本で初開催される施設である。また、周囲は民間のマリーナも隣接しているヨットの盛んな地域でもあり、毎年数多くのヨットレースが開催されるとともに、ヨット教室・オープン参加型レースを開催するなど、アスリートの育成にも努めている。

本県においても、東京オリンピック2020大会におけるセーリング競技を成功させるため開催準備を行うとともに、2018年からプレプレ大会やセーリングワールドカップ等を順次開催するとともにアスリートの育成にも努めていることから、同県のヨットハーバーの施設運営や大会運営などの取組等を調査することにより、今後の委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア 沿革

- ・平成5年：愛知県の公共ハーバーとしてオープン
- ・平成6年：わかちゃち国体実施（平成23年ぎふ清流国体実施）
- ・平成23年：指定管理者制度（(公財)都市整備協会）
- ・平成26年：ネーミングライツ（豊田自動織機(株)）
- ・（参考）過去の大会実績：世界選手権3回、全日本選手権10回、全日本学生選手権3回、高校総体1回
- ・このように、世界大会や国民体育大会他全国規模の大きな競技大会を数多く開催してきている。また競技以外にもレンタルヨットを使って、気軽に参加できる催しを開催するなど幅広い参加者も幅広く、ニューレジャー普及にも貢献してきている。

イ ワールドカップ愛知・蒲郡大会の開催概要と結果等

- ・レース日程としては、予選レースが10月17日から21日、メダルレースが10月21、22日に開催。参加国等は38の国と地域で合計186艇。日本選手のメダル受賞者は、全8レースのうち3種目計5（銀2、銅3）の結果だった。
- ・大会運営は、ワールドセーリング、日本セーリング連盟、愛知県ヨット連盟、実行委員会事務局（特別協力：豊田自動織機(株)）、愛知県、蒲郡市等で実施。愛知県も地元自治体として実行委員会に参画し、蒲郡市と連携して大会の成功に向けて取り組んだ（知事が大会名誉会長）。なお、ワールドセーリング、日本セーリング連盟各団体から高い評価を得ていたことで、日本で初めてワールドカップが開催された。
- ・10月21、22日の土日は地元のラジオ局、テレビ局のイベントも実施され、両日とも大型ビジョンの設置を行う予定だった。しかし、22日は台風で設置で

きなかった。

- ・大会時における県・市の取組として、選手へのレンタル自転車の貸出し、観客には、海上からのレース観戦用として無料観戦船の実施、双眼鏡の無料貸出しを行った。
- ・大会に併せての新たな施設の整備は、二つのクラブハウス、その間にあるセンタープラザ。競技用艇庫、コンテナヤード等が行われた。競技用艇庫は、和歌山セーリングセンターに次いで2番目に造られた。なお、工期は平成29年1月から8月。
- ・新設した二つのクラブハウスは、ワールドカップ用に特別な仕様で行った。事務室を受付け及びレガッタオフィス、13ある会議室をパーティションで区切って、スタッフ及び技術代表オフィス、ドーピング検査室、海外及び日本VIPラウンジ、プレスセンター、大会役員ラウンジ、コメンテータースタジオ、TVクルー・TV制作複合スペース、無線通信室、本部実行委員会事務局等に変更した。
- ・センタープラザの大屋根は東京ドームで使われているものと同じ膜構造であり、ワールドカップでは選手の休憩場所などに使われた。雨でもいろいろなことに利用できるのも、選手などにとても評判が良かった。

エ その他施設運営等

- ・周辺開発を含めると、H I Sが新たな施設を造っている。さらにリゾートホテルも建設中で、今回のワールドカップを契機にして、一層地域の活性化に役立てられたらと考えている。
- ・本年度の主な行事と実績
 - ①ヨット教室：2コース（計76名受講）
 - ②ヨットレース：6回開催
 - ③ヨット体験乗船会：6回開催
 - ④フリーセーリングディ：2回開催
 - ⑤ヨット技術講習会：2回
 - ⑥海難救助訓練：2回
 - ⑦その他：海上安全講習会、レスキュー訓練等

(3) 主な質疑応答

質 疑 日本で初めて開催されたセーリングワールドカップ愛知蒲郡大会の観戦者規模、無料の観覧船の運用方法、また開催に当たっての課題は。

応 答 観戦者の実数は未集計だが、それほど多くなかった。その理由は集客が望めた土日が台風と重なり、天候だけでなく周辺での関連イベントも中止となったためと思われる。無料観戦船は事前申込み制

で1日2回出港したがとても好評だった。なお全体の課題は、直前まで海外からの参加者が確定しなかったのが最大。また、広報の関係も公式なものがなかなか固まらずPRが遅れた。

質疑 セーリングワールドカップにおける警備の問題や言語の対応はどうだったか。またボランティアの方たちがどの程度いたのか。

応答 警備については、各国のテロ状況を鑑み、各方面からも重視の指摘などあり準備した。常時警察が待機し、メイン競技の日は隣地でイベントもあったので機動隊も10名程度つめていた、海上保安庁も海上警備の形で巡視船を配備し、また艇庫の上から海上監視の形をとっていた。なお、神奈川県警も視察という意味で来ていた。ボランティアは、海外からの参加者も多かったので、豊田自動織機グループ関係の方が多く関わり、1日当たり30から40人が対応した(期間は最長14日間)。業務内容は、選手受付や問合せ等の案内、観光案内等をお願いした。

質疑 資料では、収容規模でディンギーが538艇とクルーザーが42艇と記載があり、10月31日現在の保管状況は、ディンギーが88艇、クルーザーが24艇とある。神奈川は藤沢市がオリンピック会場となるが、湘南港は既存のディンギーなど1,000艇などかなりあるが、大会期間中に移設しないとイケない。ここに関連し収容規模と現在の管理状況、この数字の違いは何か。今回のワールドカップでは移動の必要性などなかったのか。

応答 ディンギーは夏は多いのだが現在は少ない状態である。大会に関しての移動は、普段はばらばらに留めているが、大会の要望に応じて、選手が使用する場所など避けて置いてもらった。したがって他の港に移動したとかいうことはない。

質疑 説明にあった大型ビジョンの画像の撮影はどのような手法でされて誰が作成したのか、またそれに際しドローンとか新たな撮影手法の検討などされたのか。また、ユーチューブでも発信したのか。

応答 隣の施設の緑地で、ワールドカップ支援イベントということで、大会とは別団体の日本ヨット連盟が広告代理店に契約してそこが大型ビジョンを設置し実施された。したがって、大会委員会が関わったわけでない。そして映像は、レースの様子の映像はこちらで流すので、その模様は、ドローン、また船にカメラを付けて海面の映像を中継に出した。さらに海面からでは順位や位置が分からないので、各船にGPSを付けて、艇をアニメーション化して、海を上から見た形で艇を絵にして国旗を付け、今1位はどこの国の艇かとい

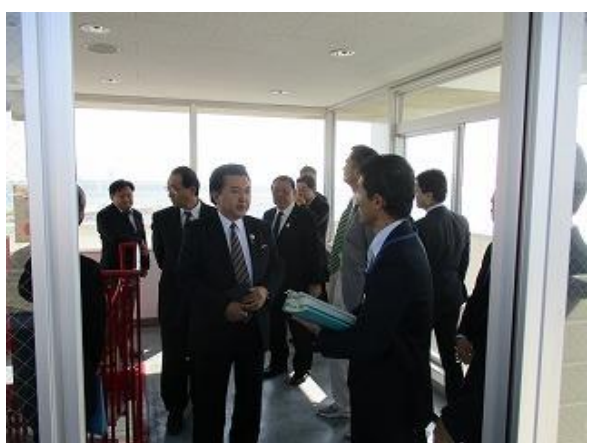
うことが分かるような映像をイベント広場で流した。さらに土日の決勝は、ユーチューブでもライブ中継で流して発信していた。そのスタッフは隣のテレビ制作チームのクルーが作成し、それをモニターやユーチューブで流していた。

質 疑 開催経費について、県の負担金は2,500万円と説明があったが、開催にかかる全体経費とその内訳は幾らか。

応 答 全体としては約1億円で、地元自治体負担ということで愛知県と蒲郡市から2,500万円ずつの負担。あとは協会などからもあった。他に企業などからの協賛金として、豊田自動織機(株)などから2,800万円など。



(正面屋根部分がセンタープラザ)



(*) ハーバー内視察中においても、質疑が随時行われた。

(4) 調査結果

海陽ヨットハーバーは全国でも有数の規模を持つ公共のヨットハーバーで、今年10月のセーリングワールドカップの日本初開催に当たり施設整備をして大会を開催した。さらに、周囲も民間のマリーナも隣接しているヨットの盛んな地域

で、毎年数多くのヨットレースが開催されるとともに、ヨット教室を開催するなど、アスリートの育成にも努めている。

以上のように、豊田自動織機 海陽ヨットハーバーにおける施設整備やセーリングワールドカップ開催における概要などを調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

4 東大阪市花園ラグビー場

(1) 調査目的

ラグビーワールドカップ2019の試合会場である東大阪市花園ラグビー場は、日本初のラグビー専用スタジアムであり、ラグビートップリーグのホームグラウンドであるだけでなく、全国高校ラグビーフットボール大会の会場としても有名である。現在ラグビーワールドカップ2019の開催に向けて、市として施設改修や市内観光ルートの確立などに取り組んでいる。

本県においても、ラグビーワールドカップ2019の横浜開催を成功させるため、共同開催都市の横浜市と連携し開催準備を行うとともに、国内外の魅力的なラグビー大会等の誘致を行っていることから、同市における花園ラグビー場の施設運営やラグビーワールドカップ2019に向けた取組等を調査することにより、今後の委員会審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア ラグビーワールドカップ開催に向けての留意事項

(ラグビートップリーグの近鉄ライナーズゼネラルマネージャーより、アスリート経験者としてチームを運営する立場からの説明)

- ・自らは1989年から1996年まで選手で在籍。当時はアマチュアで、午後5時まで働きそのあと練習。試合は休暇などとしてやっていた。
- ・引退後10年ラグビーとは離れた後チーム運営に戻り10年が経過した。ラグビーと離れている間の1995年にオープン化すなわちプロ化がされ、ラグビーをすることで対価を得られるようになった。それにより、外国からも選手、コーチが多く来るようになりプロスポーツとして成立した。
- ・アスリートを迎える立場で話すと、受入側として、宿泊場所、競技場をどう見ているかという、公式戦になると、試合会場の近郊の前日からホテルに宿泊する、ホームチームの地元でも大体前日は宿泊する。そこでの過ごし方がチームとしてはとても大事な要件で、ホテルの選定基準は、競技場までバスで30分以内、食事リクエストができる、宴会場が確保できる等。また試合では23人まで登録だが、バックアップ選手を含め、洋室シングルで40室以上確保できることが目安。食事はバイキング形式で必ず栄養士がチェックできること。さらに、生ものや消化に悪いものは不可、脂分も少なめだから揚げなども不可、など細かいリクエストに対応可能で、料理を並べる順番なども指定して置いてもらう必要がある。
- ・これらの事前準備として、約1箇月前に下見に必ず行き調べる。またホテルでのミーティング終了後のバスの導線など、お客さんが多く来るところは避けるなど要望もする。このようにホテルへの要求はとても多いため、地方での試合開催になるとホテルの争奪戦になる。思い通りとれないこともある。

- ・競技場においては、荷物の搬入場所、ロッカーの大きさ、治療時のベッドの設置場所確保などかなり細かなチェックを行う。
- ・2013年に日本代表とテストマッチを行うウェールズが下見に来たときの経験として、当日に歯医者は待機しているかとのリクエストが出て、いないと言ったら、テストマッチは歯医者や脳外科医も待機していることが前提と話していた。それほど分厚い体制でやっていることを認識させられた。また、チームのトレーニングを含む練習場所の提供依頼があったが、理由は民間施設の軽いレベルでは駄目で近鉄へ依頼が来た。そのとき、依頼されたダンベルがあまりに重い(60kg)ので驚いた。このように、世界のトップアスリートは想定を超えるリクエストをしてくるので、そういった対応が大事だと感じた。

イ ラグビーワールドカップに向けての取組状況（東大阪市からの説明）

- ・花園ラグビー場でのラグビーワールドカップ開催も、神奈川県同様東大阪市と大阪府で共同開催であり、現在大阪府に共同準備事務室を設け、当市からも3名が派遣されている。
- ・経緯は、平成21年に日本開催が決定したので、橋本大阪府知事に当市市長が話し実施の方向へ進めるための推進室の前身である誘致室を設置した。平成27年3月正式実施が決まり、4月から今の大会準備共同事務室となった。
- ・グラウンドは昭和4年に日本初のラグビー専用競技場として開設。元は近鉄の所有地で競技場周辺はゴルフ場コースだったが、現在は周辺もグラウンド。
- ・これまでの改修として、平成4年に大規模化改修し、周辺が練習グラウンドへ。そして平成26年7月近鉄から市へ無償譲渡。今回ラグビーワールドカップ仕様に向けて改修中で、電光掲示板部分にサイドスタンド設置、照明の設置、大型映像装置の設置、席もベンチから全てセパレート式へ。ただ、改修中も全国高校ラグビー大会だけは実施する。
- ・改修費用は、国補助も含め72.6億円かかる。平成27年4月から寄附もお願いする形でチラシも作っている。ふるさと納税でも適用。現在1.5億円程度の寄附がある。
- ・本年度ソフト面の事業で重視しているのは、サポーターの獲得、交通など受入体制の推進。
- ・大会実施への認知度はまだまだ高いとはいえ、ワールドカップ開催は知っていても花園開催を知らない方が結構いるのが現実。横浜での7試合に対し、花園は4試合。東大阪市としては、「ラグビーの普及」が最も大事。平成23年からタグラグビーを小学校の体育の授業として取り入れるように取り組んでいて、初年度10校だったものが現在は全体53校中、38校になっている。その理由として、当市はラグビーのまちなので、小学校に行けば、野球、サ

- サッカーでなくラグビーで遊んでいるのがラグビーのまちではないかとのスタンスであり、当初は確かにけがをしやすいためとの意見などいろいろあったが、教育効果も高いということで今は概ね受け入れてくれている。
- ・関西では2021年ワールドマスターズを実施するが、やはり花園ではラグビーを開催予定。

(3) 主な質疑応答

- 質 疑** ラグビーの普及・啓発について、皆にどう認知してもらおうか。説明をもらったが、手法とか課題とかもう少し具体的な説明を。
- 応 答** 日本ラグビーフットボール協会のラグビーファミリーやラグビーフレンズなどに重点的に落とし込んでいるが、それだけでは足りないと考えている。ラグビーに全く興味のない、関心のない方にも向いてもらおうということで、東大阪市は平成22年度から誘致活動しているが、コンサートもしたり、11月4日も花園中央公園で「東大阪市ラグビーの集い」といった体験できるお祭りのことをやって興味を持ってもらい、今度は子供にラグビーの試合に来ていただくと考えている。そして、このイベントで子供たちがタグラグビーでだ円形のボールを触ってもらって家に戻り話す。昭和40年代生まれの人たちは、高校時代にラグビーに関わった人材が多い世代なので、子供が家に帰ってラグビーのことを話すと親はとても喜ぶことを聞いている。それをきっかけに親子で高校ラグビー大会に来ていただくことを考えている。予算が多くあれば物品を作って配り知名度を上げていったりできるが、現実には予算のない中で知恵を絞り、関係団体の御協力もいただきながら認知度を高めている。
- 質 疑** 2019年花園開催などの横断幕は市役所などに大きく掲示したりラグビーの普及・啓発について、皆さんにどう認知してもらおうか。
- 応 答** 2019年花園開催の横断幕は市庁舎に真っ先に付けているが、その他も協力してもらえるところはできるだけ貼ってもらっている。さらに、役所だけでは対応しきれないので、市民はじめお店など商業施設、自治会、イベントなど各方面に協力してもらい、ポスターなど貼ってもらっていて、最近は多少成果が出てきている。
- 質 疑** 組織委員会から各自治体へ情報の出方が、余りに少ないと思われる。例えば公認キャンプ地の発表が遅れている。本県の4市も手を挙げているがどうなるのかという問合せがかなり寄せられる。聞くところによると公認キャンプ地以外でキャンプを張る可能性も出てきていると聞いているが、その辺りの情報は何かあるか。
- 応 答** 先日の横浜の会議に出席したが、そこには神奈川県協会も出席し

ていたと思うが、今夏キャンプ地を絞り込んで発表すると言っていたがそれはなくなり、来年4月まで延期された。外国のチームは19で、この12月から視察に行き、それを踏まえ来年4月に発表となる。したがって全応募キャンプ地が対象となり、チームが選んだ場所が最終公認キャンプ地になる。ただ、それでは足りないので、トップリーグのグラウンドを使用したいとか、屋内グラウンドを使いたい、ホテルも用意して、などいろいろ話が来ている。以上が聞いているところ。組織委員会がワールドラグビーからいろいろプレッシャーをかけられている様子。組織委員会は当初の内容で進めたい意向だが、ワールドラグビーが納得しない。ラグビーで力のある国はそこで結果を出すことが自国で影響があるので、そこまでの水準まで日本が準備できていないではないか、ということをお組織委員会に言っている様子。組織委員会は板挟みとなっている感じがある。そこから、トップリーグの環境利用の話も出てきている。

質 疑 質問した理由は、時間がなくなっている中で、不足している施設、スタッフとかがあれば、今の段階なら準備できるが延び延びになってくると、限られたところしかできなくなってしまう。その辺りがきちんと、組織委員会がワールドラグビーの方へ打診していたただかないと。板挟みは分かるが、余り情報が少ないと組織委員会自体がラグビー知っているのかという感じになってしまうのですがどうか。

応 答 これまでは組織委員会任せだったが、これからワールドラグビーが介入してくる。それは、神奈川協会も関東協会も聞いている。スポンサーの関係もある。ワールドカップを日本でということ、そして日本がスーパーラグビーにも参戦しているが、やはり海外の大きな団体からは少し甘く見られている感じがする。日本はお金があるし、最後はやってくれると思われている。調整できればいいが大変だと思う。このように、途中までうまく調整していたが、今夏から方針が変わった感じで話が入っている。日本に来る外国人選手も多いので、相手もかなりトップリーグの施設や環境の状況を把握しているようだ。

質 疑 ラグビーの普及に関連し、神奈川県でも市町村で協会を立ち上げようとしているところが多いが、大阪の各市とかの単位でラグビー協会を立ち上げているところはどうか。大阪は歴史があるので市単位でどの程度あると思われるか。

応 答 都道府県単位の協会があるが、大阪府でも、堺市、枚方市など市

単位の協会もある。ただ活動内容は温度差があると思う。ちなみに東大阪市は平成3年にできた。古くからできたところはジュニアラグビーが盛んだったり先生が熱心なところである。



(*) グラウンド内視察中においても、質疑が随時行われた。

(4) 調査結果

ラグビーワールドカップ2019の試合会場でもある東大阪市花園ラグビー場は日本初のラグビー専用スタジアムであり、全国高校ラグビーフットボール大会の会場としても有名であるが、現在ラグビーワールドカップ2019の開催に向けて、施設改修やラグビーのまちとしての機運醸成など積極的に取り組んでいる。

以上のように、東大阪市花園ラグビー場の施設整備やラグビーワールドカップに向けた取組及び機運醸成に向けた取組などを調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

5 和歌山セーリングセンター

(1) 調査目的

和歌山セーリングセンターはセーリング競技におけるナショナルトレーニングセンターとして指定された公共施設で、トップアスリートが集う強化拠点として競技力水準向上に努めるとともに、ジュニアから一般まで幅広い年代が利用できるようにしたり、全国高等学校総合体育大会のヨット競技会場にもなっている。

本県においても、東京2020オリンピック大会におけるセーリング競技を成功させるため開催準備を行うとともに、2018年からプレプレ大会やセーリングワールドカップ等を順次開催するとともにアスリートの育成にも努めていることから、同県のセーリングセンターの施設運営や大会運営などの取組等を調査することにより、今後の委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア ナショナルトレーニングセンターについて

- ・2008年度にナショナルトレーニングセンターに指定され、それ以降強化合宿などが実施され、2年前のわかやま国体でのセーリング競技会場にもなった。また、全国高校総合大会は2015年度から10年間固定開催が決定されている。
- ・施設は県施設で、和歌山セーリングセンターは愛称、運営は指定管理者（特定非営利活動法人 和歌山セーリングクラブ）。
- ・ナショナルトレーニングセンター（NTC）としての必須条件で示されている設備と利用環境としての5要件。
 - ①50艇程度格納できる専用の艇庫およびトレーニングルームを有し、ヨットハーバー等の施設が整備されていること。
 - ②撮影した映像を即時フィードバックできる映像再生システム及び大型、モニターを有していること。
 - ③専用の練習艇およびコーチボートを有していること。
 - ④フィットネスチェック及びメディカルチェックを実施する医・科学センターと連携がとれる体制であること。
 - ⑤GPSによる航跡管理システムを有し、選手等にフィードバックできる体制が整っていること。
- ・メディカルチェックの関係では、近くに県立医科大があり、そこにスポーツ医科学関係を専門にしているチームがあり、毎週トレーナーが来ていて、選手のケアや情報共有など連携している。
- ・セーリング施設でオリンピックマークがあるのは現在当センターの艇庫のみ
- ・練習艇の一部（3隻）を現在江の島へ移していて、東京2020大会が終わるまで、情報収集用の船として、江の島で保管してもらっている。

イ 施設の概要・運営等

- ・ここには他に2箇所にマリーナがあるが、もともこの地は、平成4年にジャパンエキスポの開催地で、そこを利用して整備されてきた。
- ・高校総体で利用する艇は、各選手が持ってくることは大変なので全て管理している。
- ・ナショナルチーム選手や国体選手レベルまでは無料で使用が可能。
- ・支援委員会を設置し、何かあるときはすぐ協議等ができるようにしている。
- ・地元漁協の協力を得られる環境で練習している。江の島も同様だが、大きな違いはこの水深は浅い、しばらく10m程度で、湾内でも20から25m程度。江の島はすぐ出るとする60mにもなるので、細かな練習やレースの運営もかなり大変ではないか。アンカーラインを入れようとする、水深の3倍かかり、150から200mのロープが必要である。当センターだと60mで足りる。またこれを人力であげるのもそこあたりの違いもある。
- ・宿泊も優遇措置がある。また地方都市のため交通環境も渋滞は少なく、高速道路からのアクセスも近く、さらに関西空港も1時間圏内なので、海外も含めアプローチがしやすい。
- ・コンテナも神戸港から直接輸送しての搬入が可能。
- ・漁業関係者との友好的な関係は自慢できるところ。もともと漁港の中にヨットハーバーがあったので、近隣漁港も含め、ヨットレースをすることは理解されている。さらにレース時のアクシデントとして、数年に一度流されてしまうことがあるが、そのときは救助してもらっている。
- ・ここでオリンピック、ワールドカップのセーリング競技をすることも、大きな改修をせずにできる環境にある。公園をテント村にして、空いている場所を駐車場や艇置き場にしたりもできる。またハーバーにも空きがある。

(3) 主な質疑応答

質 疑 県がナショナルトレーニングセンターということで、世界を意識しているようだが、江の島を見られている中で、セーリング競技会場として足りない部分として何かアドバイスいただければ。また漁業関係者との関係が非常に良好だということで、具体的な内容を。開設からか、NPOになってからか。

応 答 江の島も見させていただいているが、大きな違いは人の数が圧倒的に異なるため、基準がかなり異なる。その部分で既存利用者との関係でオリンピックはかなり大変だと想像している。といってもこちら一般利用者がいるので、この方たちとの関係を日頃からとっているか否かだと思っている。その方たちは大会があれば、自分たちが練習するだけでなく、大会のお手伝いも喜んでするよ。こういった小さいコミュニティだからできていると思う。またハー

バー管理者自体もヨットを乗るし、子供たちも教えているし非常に近い関係にある。目指しているのが、セーリングする人のための視点に立って全てを動かしましょう、商売でなくこういった視点で活性化して運営して、それでお金が回ればいいよねという感覚、そのためぎりぎりまで回していく。こういったことが運営側の考え方。江の島のヨットハーバーだとそれどころではない規模かと思うが、管理側の人の問題、意識の問題は、少し違うように感じている。漁業関係者との関係は我々からでなく、ずっと先輩たちが努力して築いてきた関係。漁師からは嫌な部分はあるとは思いますが、あえて話をする、これを今も続けている。

質疑 昔から漁業関係者とは全くトラブルないままきているのか。
応答 今もときには、レースエリアで漁をして邪魔される、こちらも漁のエリア入り漁の網を切ったりすることがあり、全くトラブルがないわけではない。ただ、できるだけ後に引かないようすぐお互いが謝ったりしている、

質疑 セーリング文化の醸成のためのどんなことをしているか。新たなセーラーを目指す子供たちなどもっと増やす取組など、小さな子供など青少年たちへの取組状況は。また学校でセーリングクラブは幾つあるか。

応答 平成26年度から和歌山県教育委員会主催で、和歌山・海プロジェクトという授業を立ち上げている。長野の子供たちは授業でスケートするように、和歌山の子なら授業でセーリングが皆できるといいなと考えていた。それを実現するために、授業でヨットに乗れる時間を持つよう要望して、遠足の延長のような形で、ここで一日ヨットに乗る。規模として学校のクラス単位でヨット体験。今年は19校600人の参加。小中と特別支援学校対象。特別支援学校で来られない場合は、こちらから出向きプールでやっている。またジュニアヨットクラブを運営している。そして、ここの営業は日没まで。日の長い時期は練習したい人が多く、紋切り型でなくセーラー目線で、できるだけ利用させている。

質疑 高校のセーリング部の数と海体験プロジェクトの事業予算は。
応答 県内の高校ヨット部は2校あり30名程度。また高体連に所属しないのでやっているのも数校ある。来年からは高体連に1人乗りが入ってくるので、ヨット部でないけどインターハイ目指す方が増えていくと考えている。予算は県が全部持ち19校で350万円。内訳はバス代と人件費、条例で決められた施設利用費など。

質 疑 マリーナの全体にかかる年間経費、指定管理料、収益は。
 応 答 その年の大会の有無で多少異なるが、全体で年間6,000万円前後。
 収支はほぼトントン。儲かる事業はない。指定管理料は年間690万円。
 用途のほとんどは光熱水費。特に水をたくさん使うので下水道
 費含め水道代がかなりのウエイトを占める。



(ナショナルトレーニングセンター専用艇庫（中央上部に五輪マーク）と艇庫内)



(*) センター内視察中においても、質疑が随時行われた。

(4) 調査結果

和歌山セーリングセンターは、セーリング競技におけるナショナルトレーニングセンターとして指定された公共施設で、トップアスリートが集う強化拠点として競技力水準向上に努めるとともに、ジュニアから一般まで幅広い年代が気軽に利用でき、全国高等学校総合体育大会のヨット競技会場にもなっている。

以上のように、和歌山セーリングセンターにおける、ナショナルトレーニングセンターの特徴及び施設全体の概要や、運営におけるセーリング普及や競技力向上に向けた取組を調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

〈参 考〉

- 1 随行者 砂村副主幹(議会局議事課)
秋田副主幹(スポーツ局総務室)
石井副主幹(産業労働局国際観光課)
塩田連絡官(警察本部総務部総務課)

- 2 調査箇所側出席者
 - (1) 豊田スタジアム
豊田市スポーツ課長、同課担当長、
ラグビーワールドカップ2019推進課長、同課副課長
(株)豊田スタジアムボランティアスタッフ
 - (2) 豊田自動織機 海陽ヨットハーバー
愛知県三河港務所長、愛知県建設部港湾課課長補佐、
愛知県教育委員会保健体育スポーツ課主幹、
(公財)愛知県都市整備協会海陽ヨットハーバー管理事務所長
 - (3) 東大阪市花園ラグビー場
東大阪市花園ラグビー場スタジアムマネージャー、
東大阪市花園ラグビーワールドカップ2019推進室次長、同総括主幹、
近鉄ライナーズゼネラルマネージャー
 - (4) 和歌山セーリングセンター
和歌山県教育庁生涯学習局スポーツ課長、
(公財)日本セーリング連盟理事・オリンピック強化委員会 NTC マネジメント担当、
NPO 法人和歌山セーリングクラブ事務局 NTC マネジメント担当

〈参 考〉

- 1 随行者 砂村副主幹(議会局議事課)
秋田副主幹(スポーツ局総務室)
石井副主幹(産業労働局国際観光課)
塩田連絡官(警察本部総務部総務課)

- 2 調査箇所側出席者
 - (1) 豊田スタジアム
豊田市スポーツ課長、同課担当長、
ラグビーワールドカップ2019推進課長、同課副課長
(株)豊田スタジアムボランティアスタッフ
 - (2) 豊田自動織機 海陽ヨットハーバー
愛知県三河港務所長、愛知県建設部港湾課課長補佐、
愛知県教育委員会保健体育スポーツ課主幹、
(公財)愛知県都市整備協会海陽ヨットハーバー管理事務所長
 - (3) 東大阪市花園ラグビー場
東大阪市花園ラグビー場スタジアムマネージャー、
東大阪市花園ラグビーワールドカップ2019推進室次長、同総括主幹、
近鉄ライナーズゼネラルマネージャー
 - (4) 和歌山セーリングセンター
和歌山県教育庁生涯学習局スポーツ課長、
(公財)日本セーリング連盟理事・オリンピック強化委員会 NTC マネジメント担当、
NPO 法人和歌山セーリングクラブ事務局 NTC マネジメント担当